



2014.October



今号の内容

自己不全性格 Selbstunsichere

学長からの巻頭あいさつ

と老賢者 old wise man

学生会催おの
学生同士の
交流の場を

なるきょう通信 ~みなさんは自分の身を守るための対策は、行っていますか?~

医療における偶然

-患者の運と医師の運-

もうすぐ 大学祭

まけまけ一杯の元気があれば
何でもできる123だー! ほか

学園だより

GAKUEN DAYORI

学園だより No.70

CONTENTS

2014.10

自己不全性格 Selbstunsichere と老賢者 old wise man	学 長 田中 雄三	1
ようこそ鳴門へ ～新任教職員の横顔～		2
坂本 有芳, 森 真美, 野村 篤, 竹口 幸志, 富永 洋和, 田原 一幸, 戸田 陽介, 藤原 司, 二宮 純子		
四国地区大学総合体育大会今昔		5
四国地区大学体育連盟 理事 田中 弘之		
熱戦!! 第65回四国地区大学総合体育大会		6
競技日程・成績, 壮行会・各競技の様様		
もうすぐ大学祭		10
-まけまけいっぱい元気があれば 何でもできる123だー!- 第31回鳴潮祭実行委員会委員長 中川 裕太		
課外活動 News ～新しく設立しました!～		12
居合道同好会	代表 山口あずさ	
ボードゲームサークル	部長 竹田 慎	
ring-ore	リーダー 阿佐 賢彦	
海釣りサークル	部長 西村 弥	
教育・研究活動紹介		14
遊びを学びに -おもちゃ王国プロジェクト-	教職実践力高度化コース 阪根 健二	
フレンドシップ活動・理科実験教室	自然系コース(理科) 武田 清	
こんにちは附属です		16
平成26年度 幼児教育研究会を終えて	附属幼稚園 教諭 杉山 健人	
野外学習・宿泊学習	附属小学校 教諭 濱田 実	
NIE全国大会を終えて	附属中学校 主幹教諭 大井 育代	
附属小学校との交流	附属特別支援学校 小学部主事 山崎 仁寛	
国際交流		18
留学体験記 -アメリカ合衆国ウエスタンカロライナ大学留学報告-	藤原正侑子	
フィンランドのタンペレ大学との学術交流協定の締結	長島 真人	
赤い大地のルワンダへ -世界はみな同じ-	小田真規子	
君の知らない台湾	巫 錫 杰	
学生会・院生会だより		22
学生同士の交流の場を	学生会長 赤木 静香	
人と人がつながる院生会	院生会長 山田 高之	
健康手帳 「医療における偶然-患者の運と医師の運-」		23
心身健康センター所長 廣瀬 政雄		
なるきょう通信 -大学からのお知らせ-		24
防犯 ～みなさんは自分の身を守るための対策は、行っていますか?～		
行事予定		25
編集後記		25



◆ 学長 田中雄三



私の就寝はおよそ0時半、起床は6時半である。short sleeperである。寝る前には、昔の日記の適当なところを開いて読む。ほぼ習慣になっており、

日記の断片からあれこれ

のことを思い出す。記憶の反芻である。私の海馬の記憶が正しいかどうか確かめようもないが、記憶の反芻はサウダージ(愛惜)な感情を引き起こし心を静めてくれる。50歳代まで、散発的に日記をつけていたので大学ノート5冊分ほどの量になる。体験に伴う感情の記載はあまりなく、出来事が数行並んでいる場合がほとんどである。しかし、日記のどのページからも一貫して立ち上ってくる感情がある。自己不全感である。日記からは達成感や満足感は見られない。この内省と「基底抑鬱」とも言える感情はどこからきているのだろうか。日記のほんの一部分を開示してみよう。

『1963年4月：入学式、よい天気だ。三浦学長のく自我を確立し、主体性を持って学べよとの訓辞。式典は簡潔に終わる。喜びよりも漠然とした不安がジワッと湧く。某月某日：ドイツ語のテンポが速い。物理も困難、選択していなかったつけが回ってくる。1年で50単位取得はなかなか厳しい。某月某日：青谷海岸にスケッチに行こうと思立ち列車に乗る。何故か急に息苦しくなって、発車間際に列車を降りる。駅構内の東側でスケッチを二枚。それから散髪をして帰った。何故か自己不全感に包まれている。1964年元旦：初詣。Nから年賀状有り。東大文Iに決定とのこと。官僚を目指すという。彼の自信はどこからくるのか、不思議である。某月某日：行きつけの古書店に寄り自宅から持ち出した古本を売却、400円也。その足で「エデンの東」と「シャレード」を見る。Gut. 某月某日：釣りに行こうと思っていたので、

5時に起床。釣り支度はすぐに終わる。朝刊に目を通していたら急に釣り行きがつまらなく思えてきたが、予定通り7時半のバスで湖山川に出かける。途中、釣り餌の赤虫を買う。湖山川は子ども連れやアベックで賑わっていた。湖山橋の少し上で釣り糸をたれる。ウキはびくりとも動かず、釣り場をあちこち移動したが釣果なし。赤虫よりミミズのほうがよかったか。正午過ぎに切り上げる。帰宅後、雨となる。家の裏にある古井戸に釣り糸を垂らし、小鮒を一匹釣ってみた。盥の中に入れてしばらく小鮒が泳ぐのを見て、再び古井戸に放す。1978年3月：間もなく2年間の国立病院出向の期間が終わる。医局員としてのdutyを果たした。これからどこで働くか自由の身だが、ともかくもう一度大学へ戻りたい。「落ち着き」と「断念」と「先の見通し」が僕には未だない。この不確実感はどこからくるのか。』

パタン！（ノートを閉じる音）。いま、私が目指している人格像は老賢者である（註1）。そんな風に思いながら、一日を内省しているといつの間にか眠りに落ちている。さして深いとも思えない眠りの中で、さまざまな夢をみながらもう一つの人生を生きている。しかし、夢の中でも私は依然として自己不全性格のままである（註2）。

註1) 老賢者 old wise man：ユング,C.G.が提唱した元型の一つ。世界の各地に老人の知恵をモチーフにした昔話があることから人類共通の無意識の元型の一つに想定されている。

註2) 自己不全性格 Selbstunsichere：性格を7類型に分類したときの一つの類型。以下の性格標識で表される；遠慮深い、自信がない、苦勞性、いつも自分のことを気にする、劣等感、努力的、臆病、孤立的だが人嫌いではない。（傍線筆者）

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

◆ 生活・健康系コース（家庭） 准教授 ^{さか}坂 ^{もと}本 ^ゆ有 ^か芳

今年度4月より、生活・健康系コース（家庭）に着任いたしました坂本有芳と申します。これまで北海道、千葉県、東京都に住み、西日本での生活は初めてです。狭い都心暮らしが続いたので、鳴門高島の広々とした自然に囲まれていることは、時おり、夢のように感じられます。

担当している授業は「消費者経済学」(学部)、「生

活経営学」(大学院)などです。これまで、政府や大学が主体となるアンケート調査を数多く手がけ、人々の生活行動や意識をいかに数値でとらえるかを追求してきました。アンケート調査の実施や分析でお困りの際にはお声掛けください。教育に資するエビデンスを、より確かなもののできるよう、学生とともに切磋琢磨してゆきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆ 芸術系コース（美術） 准教授 ^{もり}森 ^{なお}真 ^み美

今年度4月より芸術系コース（美術）に籍を置いて、就職支援室で勤務することになりました、森 真美と申します。昨年度までは、徳島県の公立小・中学校や県教育委員会で37年間勤務しておりました。専門は彫塑ですが、鳴門教育大学では、教員採用試験を中心とした就職支援に携わっています。

教職を目標としている学生さんのみならず、公務員や一般企業への進路を考えている人に対しても手厚い支援を行い、皆さんそれぞれの夢が実現できるお手伝いをしたいと考えています。よろしくお願いいたします。



◆ 教員養成特別コース 准教授 ^の野 ^{むら}村 ^{あつし}篤

今年度4月より、教職大学院教員養成特別コースに着任いたしました野村 篤と申します。

生まれも育ちも鳴門、そして結婚後の住所も勤務先もほぼ鳴門という生粋のうずしおっ子（あるいは、うずしおっちゃん）です。昨年度までは小学校に勤務し、主幹教諭や教務主任、研修主任等をしておりました。これまでは、子どもたちが「生

きる力」を身につけるための手助けをしてまいりましたが、これからは、スーパールーキーの皆さんが深い知識と確かな実践力を修得し、立派な教師になることができるように、精一杯支援していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。





ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

◆ 大学連携e-Learning教育支援センター四国鳴門教育大学分室 講師 ^{たけ}竹 ^{ぐち}口 ^{こう}幸 ^し志

2014年1月から大学連携e-Learning教育支援センター四国鳴門教育大学分室に着任いたしました。遠隔教育プログラム推進室を兼任しております。私が働く部署では、ビデオカメラによる授業の撮影、動画編集、学習システムによる授業の配信を行っています。また、遠隔会議システムを用いて北海道や宮崎にいる学生の方とゼミをしたり、ビデオ

カメラを持って授業の撮影の旅に行ったり、まるでTV局のような仕事をしています。

私は広島県出身です。現在は視聴を持続させるためのe-Learningコンテンツの研究を行っております。授業は現代教育実践論、現代学校文化論などを担当しております。微力ながら、本学の教育・研究の充実と発展に努めさせていただき所存です。よろしくお願ひ申し上げます。



◆ 経営企画本部 財務課長 ^{とみ}富 ^{なが}永 ^{ひろ}洋 ^{かず}和

本年4月1日付で財務課長に着任いたしました。私は、阿南高専で12年間、主に機械工学科の技術指導者として、鋳造、鍛造、溶接及び機械工作の各実習を担当しました。今でいう「ものづくり分野」です。また、野球部監督として3年間、高専生とともに汗を流し甲子園を目指しました。(県大会ではベスト8止まりでしたが・・・)

国立大学法人化を迎え、膨大な業務に追われたことを記憶しています。

香川大学では6年間、課長職として財務系分野を担当しました。そして現在に至ります。

今の国立大学は、国立大学改革プランに基づく機能強化が求められ、財政も大変厳しい状況です。その中で鳴門教育大学のさらなる発展のため、財務課長として知恵を絞り、あらゆる視点から分析し、皆様方の期待に添えるよう尽力したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

徳島大学では14年間、医事系、会計系分野を経験し、医療事務、病院再開発に携わり、そして



◆ 経営企画本部 施設課長 ^た田 ^{はら}原 ^{かず}一 ^{ゆき}幸

4月から経営企画本部施設課長に着任いたしました田原と申します。

模な大学ではありませんが、教員就職率1位等の実績があり、キャンパスも緑豊かでまとまりのあるすばらしい大学の一員になれたことを誇りに思います。

前任は京都大学施設部で、工事の設計・積算・現場管理、インフラの維持保全、サステナブルキャンパス推進室では環境関係の業務を行っていました。

学生には、鳴門教育大学を選んでよかった。

また、先生には、鳴門の教育研究環境は素晴らしいと自信を持っていただけるよう尽くしたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願ひします。

私自身大阪教育大学以来約20年ぶりの教育系大学での業務となりますが、鳴門教育大学は小規

ようこそ鳴門へ～新任教職員の横顔～

◆ 教務企画課長 戸田陽介

今年度4月から、教務企画課長に着任しました戸田と申します。前任は、文部科学省生涯学習政策局政策課で、教育統計の窓口として他省庁との連絡調整や国会対応等を担当しておりました。それ以前は、文部科学省では図書館や博物館などの社会教育行政、総務庁（現総務省）では青年国際交流として世界各国を船で訪問する「世界青年の船」事業、

内閣法制局では教育基本法等の教育関係の法律審査など多様な経験をさせていただきました。

出身は京都府北部ですので、久々の西日本での自然豊かな生活には日々懐かしく感じております。大学での勤務経験はありませんが、これまでの経験を生かしながら、鳴門教育大学の一員として頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

◆ 社会連携課長 藤原つかさ

本年4月に社会連携課長に着任しました。これまで、香川医科大学、香川大学、広島商船高専で勤務してきました。

出身は香川県で、そこでの勤務がほとんどでしたが、住んでいるからこそ判ることが多く、徳島・鳴門の新たな発見が日々続いています。

また、社会連携関係の業務も初めてで、こちら

は勉強の日々です。

鳴門教育大学が、地域・社会で愛され、存在感のある大学となるよう、お役に立てればと思っています。

「楽しくなければ仕事じゃない」「明るくなければ職場じゃない」と考えていますが、プラス、「なるちゆるうどん」のように、やわらかく、あげあげ、で仕事に取り組んでいきますので、よろしくをお願いいたします。

◆ 心身健康センター 看護師 二宮純子

4月から心身健康センターで勤務しております看護師の二宮純子と申します。昨年未まで20年間鳴門病院で勤務しておりました。

鳴門病院ではICU・手術室・整形外科病棟・外来と様々な部署を経験して参りました。

その中で常に患者様の立場に立ち患者様本人はもとよりご家族の訴えや相談にも耳を傾け、その

方にあった看護の提供を心掛けてきました。

病院と心身健康センターとの業務には多少の違いはありますが、今までと同じ気持ちで初心に戻って務めていきたいと考えております。

これから教育者として子供達の未来と社会に貢献していく人材の疾病予防、予防のための身体的・精神的健康の増進に、今まで医療現場で培った経験を活かしていきたいと考えております。

どうぞ宜しくお願い致します。



四国地区大学総合体育大会今昔



◆ 四国地区大学体育連盟 理事 田中弘之

初めて、四国地区大学総合体育大会（以下、四国インカレ）に帯同したのは、1988年、高知県で開催された第39回大会であった。開学間もない本学は、学年進行中のため、学部第1期生である3年生を最上級生とするチーム編成で臨み、参加できる競技や種目も限られていた。開学当初は、本学にも専有の大学バスがあり、ほぼ全競技が同一日程で集中開催されていたため、バスケット部やバレー部等、和気藹々^{あいあい}で相乗りの道中は賑やかであった。大歩危、小歩危などの窓外の眺望に歓声をあげつつ、物見遊山気分とともに、高速道路もない時代、唯一の動線である国道32号線を南下した光景が懐かしい。当時は、伝統臭染み入る学ランにズタズタの角帽姿の応援団を擁する大学もあり、勇壯に閃く団旗の下で、西日本インカレでも通用するハイレベルの競技展開には、心惹かれる醍醐味があった。

四半世紀が過ぎ、四国インカレもそれなりの変貌を遂げた。今年度の第65回大会は、4週にわたって分散開催され、メイン日程となる最終週には、既に、ほぼ半数の競技を終えていた。往年時には、主管大学の体育館で、収容しきれないほどの選手団が結集した熱意漲る総合開会式も、今は、狭小の会議室で淡々と催行され、各大学の旗手の背には一抹の寂寥感漂う様相となっている。各競技の選手層の翳り^{かげ}も著しく、花形の陸上競技は1日で全種目を終える日程となり、嘗ては、プールサイドを埋め尽くしていた応援コールの囂しい水泳競技でも、予選なしでの決勝レースで、3選手の優勝争いという現況が散見される。

過去と他者を変えることは不可能であり、未来と自己は意志の存する限り変幻自在である。青春や朱夏の時代を謳歌している学生たちも、やがては、白秋から玄冬の時期を迎える。選手としての盛りを過ぎた頃、なお、スペクティターとしてスポーツに心を寄せるのは、渾身のプレー、凛としたユニフォーム姿、献身的にチームを支えたマネージャーとしてのプライド等々、自分だけが有する過去の燦めく記憶に投影できる者だけなのかも知れない。全般的な退潮傾向の中、開学以来、学部学生の入学定員が半減しても、なお、少数精鋭の本学は、全国でも有数の学生課外活動団体高加入率を誇り続け、例年、四国インカレの頂点に立つ選手が続出している。

日々、キャンパスでは、大学入学後に、新たな競技に挑む気鋭の選手たちが練習に精励している。勝敗目的論の呪縛から脱却し、スポーツマンスピリットを滾らせて、生涯にわたって個々人の色褪せしない記憶のパーツが汪洋累積できるように、保健体育科の教員として、これからも微力を尽くしたいと、中秋の名月を愛でつつ、モノ想う秋に記す…。



熱戦!! 第65回四国地区大学総合体育大会

第65回四国インカレが、香川大学を主管大学として香川県内各会場で開催されました。

本学からは、13競技に16団体・総勢229名（男子171名・女子58名）の選手が参加し、熱い戦いを繰り広げました。

参加競技種目	参加団体名	競技会場	開催日程
1 陸上競技	陸上競技部	香川県立丸亀競技場	6 / 27
2 水泳競技	水泳部	香川県立総合水泳プール	6 / 21 ~ 6 / 22
3 硬式野球	野球部	志度総合運動公園	6 / 27 ~ 6 / 29
4 硬式庭球	男子硬式テニス部 女子硬式テニス部	香川総合運動公園テニス場, 高松市亀水運動センター庭球場	6 / 25 ~ 6 / 27
5 バスケットボール	男子バスケットボール部 女子バスケットボール部	高松市西部運動センター, 牟礼総合体育館	6 / 28 ~ 6 / 29
6 バレーボール	男子バレーボール部	善通寺市民体育館	7 / 5 ~ 7 / 6
7 サッカー	サッカー部	香川県総合運動公園サッカー・ラグビー場	7 / 5 ~ 7 / 6
8 ラグビー	ラグビーフットボール部	東部運動公園	5 / 17, 25, 6 / 1
9 バドミントン	バドミントン部	飯山総合運動公園体育館	7 / 1 ~ 7 / 5
10 剣道	剣道部	香川大学 第一体育館	6 / 29
11 ハンドボール	男子ハンドボール部 女子ハンドボール部	高松市香川総合体育館	6 / 28 ~ 6 / 29
12 弓道	弓道部	三豊市弓道場	7 / 4 ~ 7 / 6
13 フットサル	WFC (フットサル)	香川県立大川体育館	7 / 4 ~ 7 / 6
13競技 / 16団体		開会式: 7 / 4 閉会式: 7 / 6	香川大学オリーブホール

〈大会成績〉

総合 男子9位 (前回8位) 女子10位 (前回9位)

競技別 (3位以上) ラグビーフットボール 第3位
陸上競技 (女子総合) 第3位
剣道 (男子団体) 第3位
剣道 (女子団体) 第3位



個人【種目別】(3位以上)

陸上競技

山田 裕起	男子400m走	第1位
橋口 善成	男子400m障害	第3位
中瀬 晴香	女子100m	第2位
林 亜佑美	女子走高跳	第2位
浦山, 林, 近藤, 中瀬	女子4×100m	第3位
浦山 満里奈	女子走幅跳	第1位
原田 佳奈	女子円盤投げ	第1位
	女子100m障害	第3位

水泳競技

高山あかね	女子100m平泳ぎ	第3位
-------	-----------	-----

熱戦!! 第65回四国地区大学総合体育大会



熱戦!! 第65回四国地区大学総合体育大会



熱戦!! 第65回四国地区大学総合体育大会



もうすぐ 大学祭

まけまけいっぱい元気があれば
何でもできる 123だー！

◆ 第31回鳴潮祭実行委員会委員長 中川裕太

みなさんこんにちは！このたび第31回鳴潮祭の実行委員長を務めさせていただくことになりました中川裕太です。今年の鳴潮祭の日程は11月14日（金）～16日（日）に開催される予定です。さて今回のメインテーマですが…



に決定しました。

このテーマは昨年に引き続き「まけまけいっぴいの」とあふれんばかりのという意味を持った阿波弁を使用し、徳島県民の方々に親しみを持っていただき、鳴教生がもち合わせている元気を思う存分発揮してもらえることを願い考案しました。徳島ヴォルティスが四国初のJ1昇格を果たし、例年以上の盛り上がりを見せる鳴門をより熱くする学祭になりますよう多くの方々に来場していただき、まけまけいっぴいの元気をご覧いただければと思います。

さて、今年の鳴潮祭に対して皆さんはどのような事を期待し、何を思っているのでしょうか？1年生にとって大学生になってから初めての鳴潮祭になり、楽しみと不安の両方があることでしょう。しかし、学祭の主役は1年生です。彼らの活躍に期待しましょう。4年生は実習期間と重なり、なかなか参加できないかもしれませんが、過去3回の鳴潮祭を経験した知識を生かしていただけたら

と思います。2,3年生は昨年、一昨年に鳴潮祭を経験していることから、昨年、一昨年以上の鳴潮祭にしたいという思いがあると思います。一年生のサポートもよろしくお願いいたします。学生のみならず、大学教授や地域の方々が参加していただけるような学祭にしましょう。

それぞれの思いを裏切らないよう、私たち実行委員13名は過去の実行委員の方々からアドバイスを貰い、企画や準備などを進め頑張っています。

では、ここで今年度の鳴潮祭実行委員会委員を紹介したいと思います。



もうすぐ 大学祭

第31回鳴潮祭実行委員会委員



三役として全体をまとめる上段左より、ゆうた、こうき、もえ姉／模擬店として衛生面の管理などをする二段目左より、たまちゃん、かいぞう、ないき／企画として企画作成やライブの運営を手掛ける三段目左より、とし、しゅんしゅん、りさ／広報としてスポンサー集めやパンフレット作成に励んでいる最終段左より、かなえちゃん、もえり、あきは、いずみ

はじめてのことが多く、何度も話し合いを繰り返す、時には先輩の意見も聞き、13人で最高の学祭をすることを目指しています。これからの様々な困難が立ちまはることでしょう。しかし、こ

の13人ならきっと乗り切れると思います。頼りない13名ですが、皆さまのご協力とご理解をお願いします。

最後となりましたが、鳴門教育大学同窓会、後援会の皆様、スポンサーを引き受けてくださった企業の皆様、学生課の方々など多くの支援により私たちは活動でき、鳴潮祭を行うことができます。本当にありがとうございます。



マスコットキャラクター
たぬきち

居合道同好会

居合道同好会は今年5月に設立しました。居合道は日本刀の操法を通した、剣の理法の修練による人間形成を目的としています。もちろん、初心者は日本刀を使いませんのでご安心下さい。初心者の間は木刀や模擬刀を使用します。顧問は木原資裕先生、部員は10名いますが、木原先生を含めた全員が初心者で、手探りの状態からのスタートでした。また、授業の関係等でなかなか全員が顔を合わせることがありません。しかし、それぞれに目標をもって稽古に励んでいます。その成果を発揮するために昇級、昇段を一つの目標としていて、年に4回行われている昇級、昇段審査を受験して、自分の技能と精神を高めたいと思っています。

武道というと始めようと思ってもなかなか敷居が高い印象がありますが、居合道同好会は初心者

◆ 居合道同好会 代表 山口 あずさ

ばかりなので全員が試行錯誤しながら、切磋琢磨しながら稽古に励んでいます。毎週金曜日午後4時30分から剣道場にて稽古しています。さらに、徳島県剣道連盟居合道部の坂本憲一先生（居合道教士七段）から本格派の居合をご指導いただいています。部員は随時募集中です。興味関心のある方は是非一度、体育館二階の剣道場に足を運んでいただいて稽古の様子を見ていただけたらなと思います。

<教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育) 2年>

ボードゲームサークル

私たち「ボードゲームサークル」は今年度新たに組織されたサークルです。大学院生を中心に、ボードゲームに詳しいメンバからボードゲームをほとんど体験したことが無いメンバ、出身地や年代が異なるメンバが幅広く集っています。

ボードゲームというと、インドア的なイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、コミュニケーションを駆使したものから、自身のロジカルやイマジネーションを活用したものなど、人と人が関わる上で必要な要素がボードゲームには沢山あります。

当サークルの最大目標は、“ボードゲームを活用した教育的活用手段の研究および実践”にありますが、活動の前提は“ボードゲームを純粋に楽しみ交流する”というスタンスを大切に活動を行っています。

◆ ボードゲームサークル部長 竹田 慎

まずはお気軽に体験会から参加していただけたらと思いますので、サークルメンバー同、参加いただける方を心よりお待ちしております。

<教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(技術・工業・情報) 1年>



課外活動 News ～新しく設立しました！～

ring-ore あそび研究会 [ring-ore]

◆ ring-ore リーダー 阿 佐 賢 彦

みなさん、こんにちは。ring-oreです。私たちのサークルでは“子供たちと遊ぶための引き出しを増やそう”と“楽しく運動しよう”ということテーマに週に2回ほど活動しています。教師になってからレクリエーションやミニゲームなどで子供の心をほぐしたりつかんだりする場面が多々あります。そんなときに「ring-ore」での経験が生かされるようになればと思います。ふわっとしたサークルなので気軽にどうぞ！

<小学校教育専修 算数科教育コース 2年>



海釣サークル 「さあ、海に出よう！」

◆ 海釣サークル 部長 西 村 弥

このサークルは、鳴門海峡の自然に触れ、魚釣りを通し生命の神秘をもたどるという理念のもとに今年6月に誕生しました。

実際に防波堤で釣りをするほか、海周辺の清掃活動も行っております。

釣り経験者の部長と副部長を中心に四季折々の魚をターゲットにして活動しています。

自然豊かな鳴門で海釣りをしてみませんか？海に出て新たな自然と出会ってください！

<小学校教育専修 英語科教育コース 1年>





教育・研究活動紹介



遊びを学びに —おもちゃ王国プロジェクト—

◆ 教職実践力高度化コース（地域連携センター兼務） 教授 阪根 健 二

平成20年度から、岡山県の遊園地である「おもちゃ王国」と産学共同研究を行っています。ここでは、知育玩具を活用した教育プログラムの開発をめざし、これまでブロック玩具やままごと道具など、各種のおもちゃを実際の学校教育に導入してきました。また、遊園地内での算数遊びを考案し、現在「おもちゃ王国さんすうランド」のワークシートが、遠足等で来園した小学生に配布され、好評を得ています。

このプロジェクトは、子ども観察などで教員養成に資する点や、実習によるキャリア形成が特色です。数年前は、徳島県立盲学校・聾学校（現在の視覚支援学校・聴覚支援学校）の子どもたちにブロック遊びを指導し、遊園地への遠足引率を行いました。また、一昨年からは、東かがわ市白鳥小学校の土曜授業に参画し、小学生に世界のブロック遊びを提供し、正二十面体づくりなどの造形教室も行いました。

毎年、大学近隣の子どもたちが楽しみにしているイベントである「おもちゃ王国 IN 鳴教大」は、学園祭に開催しており、おもちゃ王国から数え切れない程のおもちゃを貸与いただき、遊びパビリオンを設置しています。その他、実際の遊園地（岡山県おもちゃ王国）に、スタッフとして遊び支援を行っており、今年も12月23日（祝）に、クリスマスイベント担当として参画します。

現在の登録学生は約30名ですが、今から参加したいと思う学生や院生は、定例会を毎週火曜日の18時から、地域連携センター2階の教授スキ

ル演習室で行っていますので、是非のぞいてみてください。

なお、正規のボランティア活動の一環でもありますので、学修キャリアノートのボランティア欄にも記入できます。こうした活動を活用して、子どもたちと交流してみませんか。



学園祭の様子



東かがわ市での実践



教育・研究活動紹介



フレンドシップ活動・理科実験教室

◆ 自然系コース（理科） 武田 清

フレンドシップ事業は、教員養成系学部の大学生が在学中から子どもたちと接する機会をもち、子どもの行動や反応について体験的に理解を深めることを目的として、平成9年度から始まった事業です。理科教育コースでは、平成10年度から参加し、小学校などに出向いて理科実験教室などを開催しています。現在、1年生の「地学実験」や3年生の「初等中等教科教育実践Ⅲ」の授業の一環として実施されています。

私の担当する「初等中等教科教育実践Ⅲ」では、グループごとに自分たちで実験の内容を考え、子どもたちと楽しめる活動となるようアレンジします。たいていの子どもたちは実験が大好きで、いつも楽しそうに活動してくれます。単に子どもたちと一緒に実験をするのではなく、その実験を通して何らかの科学的内容を伝えることを課題としています。従ってその準備には、実験の科学的原理を理解し、子どもに理解できるように内容・説明方法を考え、子どもが理解可能な言葉を選ぶなど、細やかな検討が必要です。さらに大学生とはいえ、児童は教師と見ているので、教員としての自覚も必要となります。今年は「不思議な水」（色の変化する水で遊ぶ）、「まほうの粉でロケットを飛ばそう」（粉から出る気体でペットボトルを飛ばす）、「空気砲で遊ぼう」という活動を行いました。

さてこのほか、本学ではフレンドシップ事業の一環として、年度末に大学主催のシンポジウムを開催しています。同様の目的を持った活動集団が

一堂に会し、その年の活動報告を行っています。皆さんの中にも、子どもたちとの交流を目的とした活動を行っている人がいると思います。そのような人は、是非シンポジウムに参加してみてください。より多くの仲間とその成果について語り合うよい機会になるでしょう。詳しいことは武田 (takeda@naruto-u.ac.jp) まで気軽にお問い合わせください。



幼稚園

平成26年度幼児教育研究会を終えて

◆ 附属幼稚園 教諭 杉山 健人

去る8月1日に、「科学的思考を促す『生活プラン』の創造」の主題のもと、平成26年度幼児教育研究会を開催いたしました。公開保育と研究発表を行い、県内外より430名の参加者がありました。公開保育は、第63回全国幼児教育研究大会徳島大会の公開保育と兼ねて行いました。また、幼小接続教育課程と指導計画、科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表を新たに加えた研究物「生活プラン」を刊行しました。

また、翌2日には鳴門教育大学を会場として、第63回全国幼児教育研究大会徳島大会の分科会を開催いたしました。約1,000人の参加者が台風による悪天候に負けず、熱い議論を繰り広げました。

大学の皆様からの御支援のおかげで、意義深い研究会を催すことができました。厚くお礼申し上げます。今後一層、望ましい幼児教育のあり方を求め研鑽していきたいと思っておりますので、御支援よろしくお願いいたします。



小学校

野外学習・宿泊学習

◆ 附属小学校 教諭 濱田 実

夏休み直前、台風の進路が心配された野外学習、宿泊学習も、活動を心待ちにしている子どもたちの熱意により無事に終えることができました。各学年ともに実りのある活動を行うことができました。

さて、1年生から3年生は月見が丘海浜公園で楽しく水遊びができました。プールでは味わえない自然の波を体いっぱい感じる事ができました。

4年生から6年生は牟岐少年自然の家で、規律・協同・友愛・奉仕の精神を学び、集団のなかでの自分の役割をしっかりと果たしました。



中 学 校

N I E 全国大会を終えて

◆ 附属中学校 主幹教諭 大 井 育 代

8月1日（金）、あわぎんホールにおいて、第19回N I E 全国大会徳島大会が開催されました。附属中学校は「徳島未来構想—模擬県議会を開こう—」と題して公開授業を行いました。総合的な学習の時間の取組で、新聞記事から現状を探り25年後の徳島県について考えるものです。

3年生の各クラスを政党として、党の理念のもと産業、安全、労働等、10の委員会に分かれて政策を考えました。授業では、模擬県議会を開いて討議する様子を見ていただきました。

郷土革新党の教育委員会は、各教科の授業に防災教育を取り入れることを提案しました。南海トラフ地震に備え、防災教育の常時指導の必要性を訴えるものでした。

花さか未来党の医療委員会は、糖尿病死亡率の高さを改善するための方策として、食生活を改善する出前授業、「ベジ食べる？運動」などを提案しました。新薬の開発をとおして糖尿病死亡率の低下を考えている他政党からの質疑もあり、多面的

な視点からの討議がなされました。

本校の総合的な学習の時間の取組は、課題を解決する過程で、自ら学習していく能力や態度を養うとともに、豊かな人間性を育てることをねらっています。現代及び未来の社会において解決の迫られる諸問題について、情報を集め、知識や経験と結びつけて、新しい考えを創り出す力が求められます。周りの人と協働しながら最適解を導くことのできる力を育成したいと考えています。



特別支援学校

「附属小学校との交流」

◆ 附属特別支援学校 小学部主事 山 崎 仁 寛

毎年、附属特別支援学校小学部の子どもたちは附属小学校の5年生と交流を行っています。年間を通じて子どもたちはお互いに触れ合い、楽しい時間を共有しています。

年度のはじめに交流の一環として特別支援学校の施設見学があります。初めて見る支援学校の教室や宿泊棟等を興味深く見学する附属小学生の姿が毎年見られます。そして7月にはプール交流が行われます。この日のために附属小学生はたくさんの準備をしてくれています。「何をして遊ぼうか」「どうしたら仲良くなれるかな」と考えいろいろな方法で支援学校の友だちを遊びに誘いかけます。

同じように支援学校にもこの交流の日を楽しみにしている子どもたちがいます。「5年生のお兄さんお姉さんに会いたいな」「どんな話をしようか」等、わくわくしている姿も見られます。交流はプールそのものの楽しさもあり、自然に触れ合う姿があちこちで見られます。同時に笑顔や友だちの名前を呼ぶ声が聞こえてきます。

普段あまり接する機会のない友だちと触れ合うことでもたくさんの学びがあります。『楽しかった出来事』で終わりにするのではなく、その学びを次の機会へと繋げていくことが教員にとって大事なこととなります。次は秋に音楽発表交流が行われます。練習してきたことを披露し合う場所となります。お互いの頑張りを知り、認め合う有意義な交流となるようにしていきたいと思っています。





留学体験記

—アメリカ合衆国ウエスタンカロライナ大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 ^{ふじ}藤 ^{わら}原 ^{まゆこ}正侑子

私は2013年8月から2014年5月までアメリカノースカロライナ州のウエスタンカロライナ大学に留学させていただきました。

飛行機が遅れて乗継便に間に合わず空港で夜を明かし、予定よりも遅れて大学に着いたものの寮の部屋のカギが用意されておらず別の部屋で1泊することになるなど、留学の始まりからハプニング続出で最初は不安でいっぱいでした。言いたいことを英語でなかなか表現できず言葉の壁を感じたり、授業の大変さに不安になったりと辛い時期もありました。「もっと事前に勉強していれば…」と、自分の甘さを思い知らされることもありました。ただ、正しく「言う」ことが大切なのではなく、「伝える」ことがコミュニケーションなのだという気持ちで相手と関わっていこうとすると、案外思いが伝わったり会話が盛り上がったりして、少しずつ不安や悩みを払拭できるようになっていきました。

授業は教育関係から言語学や英文法、コミュニケーションやリーダーシップなどさまざまなものを履修しました。どの授業にもグループディスカッションやグループプロジェクト等が設けられており、そうした機会を通してクラスメイトとコミュニケーションをとることで親交も深まりました。教育関係やコミュニケーションの授業では特に日本との違いについて話しを振られることもあり、常に自分の考えや意見を持って授業に臨むことを心掛けました。教育関係の授業では実際に公立学校の授業の様子を見学できる機会もあり、自分の目で日本とアメリカの教育の違いを確認することができました。

授業以外の時間も予習・復習など勉強に充てるが多かったのですが、週末にはハイキングやショッピングに出かけたり、長期休みにはロードトリップに行ったり、友人宅にホームステイをさ

せてもらったり、ハロウィン・サンクスギビング・クリスマス等アメリカらしいこともたくさん経験できました。

日本の他大学からの留学生、世界各国からの留学生、アメリカ人の現地学生等と多種多様な人間関係を形成しながら刺激的な日々を送ることができました。たくさんの素晴らしい人々と出会い、学び、多くのことを経験しました。特に日本では出会えないであろう日本に特に興味のない外国人との出会いは、彼らの持つ日本に対する素直なイメージを知ることや新しい発見もあり、大変興味深いものでした。語学学習はもちろん日本でもできますが、こうした人々との出会いは現地で過ごしてこそのものですし、留学したからこそ気付くことは多いと思います。9か月間の留学では世界に通用するような英語力(特にスピーキング力)は身についたとは言えませんが、現地の学生と同じ授業を受け、課題をこなしてきたという事実は、大きな自信に繋がったと思います。また、この留学を通して自分に足りないものを改めて自覚することができ、今後の新しい目標を見つけることもできました。この留学に関わって下さった全てみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

(教科・領域教育専攻 言語系コース(英語) 2年)





フィンランドのタンペレ大学との学術交流協定の締結

◆ 芸術系コース（音楽） ^{なが}長 ^{しま}島 ^{まさ}真 ^と人

私たちの大学は、フィンランドのタンペレ大学の学校教育学部と学術交流協定の締結を約束された。タンペレは、フィンランドの二番目に大きい都市で、ヘルシンキの北に位置している。森と湖に囲まれた美しい都市である。

タンペレ大学は、学生たちに対して、多様な学習場面を提供し、決して座学にとどまらない教育を目指している。そのことを、キャンパスを訪問して、納得することが出来た。ここでは、学生たちの主体的な学修を促すために、授業の空き時間に学生たちが過ごすカフェテリアや資料室、作品展示室、多目的ホール等が数多く配置されていた。たくさんの学生の姿が目にとまったが、彼らは、静かに、自習や読書、対話、ディスカッション等を行っていた。学生たちは必要最小限の音量で対話している。物静かで平穏な雰囲気のキャンパスであった。本学と同様に、清潔さも保たれていた。本学も、学生たちが自習したり、対話するスペースが配慮されているが、タンペレ大学は、その数と広さが全く違っていた。このような配慮は、学生たちに集団的な作業課題を頻繁に与え、学生た

ちがミーティングを行うスペースを十分に提供するために工夫されたものであった。学生たちは、語り合いを通して、課題解決のために知識を応用し、最終的には、このような分かち合いの成果として、一人ひとりの教育に対する考えや信条を自律的に形成していく。そして、このような協働的な学びの習慣は、学生たちが卒業した後には、子どもたちに向けての指導に活かされていくことになる。

集団的な学びによって、学生たち一人ひとりが自律的になっていく学修の場は、どのような学修の内容と方法によって実現されているのだろうか。知識や情報が単に伝授されるのではなく、何らかの課題解決のために必要な知識が応用され、定着され、その成果が省察される教育が徹底していると思わざるを得ない。私たちの大学は、このような大学と学術交流を行うことが可能になった。本学の多くの人に、まず自分の足で行ってみて、自分の眼で見ていただきたい。分かち合いの教育のすばらしさに浸っていただきたい。

平成26年度 外国人留学生現員表

平成26年10月1日現在

区分	タイ	インドネシア	韓国	中国	ラオス	台湾	ネパール	アメリカ	エルサルバドル	ホンジュラス	ブラジル	計
大学院学生	1			16		1	1	1				20
教員研修留学生		1							1	1	1	4
研究生	大学院		1	2	2							5
	学部			5								5
特別聴講学生	2			2		2						6
合計	3	1	1	25	2	3	1	1	1	1	1	40



赤い大地のルワンダへー世界はみな同じー

◆ 経営企画本部財務課 小田 真規子

「ルワンダ」という国をご存じでしょうか。中央アフリカにある四国の1.5倍ほどの大きさの国で、映画『ホテル・ルワンダ』に描かれたジェノサイドが有名ですが、近年は「アフリカの奇跡」と呼ばれるほどの経済発展を遂げています。この度、そのルワンダへ3週間行って来ました。

きっかけは、小野由美子教授からルワンダにあるトゥンバ高等技術専門学校という学校へ職員派遣のお呼びがかかったこと。トゥンバ高等技術専門学校では、何がいくつあるか分からない・物がなくなる（返ってこない）など、物品の管理が徹底されておらず、物品管理のマニュアル整備が求められていました。そこで、鳴門教育大学で物品管理の仕事を担当していた私がマニュアル整備の支援に行ったというわけです。

海を越え時間を越えて、たった1人でルワンダへ。約20時間のフライトでくたくたになった私の目に飛び込んで来たのは、日本では絶対に見られない木々の緑と赤茶色の地面が印象的な広大な景色でした。アフリカへ来たとき実感した最初の瞬間でした。

帰国してしばらく経った今、「ルワンダ」と聞いて真っ先に思い出すのは、その赤茶色の地面です。乾季だったので、少し歩いただけで靴があっという間に真っ茶色になったこと（ちなみに、雨期になると靴はドロドロになるそうです）。そのくせ、ルワンダ人は靴にこだわっていて、よく見ると学校一のイケメンの靴がピカピカに磨かれていたこと。一方で、裸足にサンダルで歩いている人もいたこと。足の爪に砂が入って気持ち悪くないのか気になりました。

こういう話を聞くと、他にはどんなに日本とかけ離れた生活を送るのだろうと思う方も多いかもかもしれません。でも、ほとんどは日本と変わらないような生活です。例えば食事。ルワンダ滞在中は、もちろんアフリカンフードや洗練されたレストランでも食事しましたが、支援に訪れたスタッフと一軒家を借りて共同生活を送っていたので、基本的には自炊です。日本から持ち寄った食材とルワ

ンダで買った食材を使い、料理上手がささっと作ってくれます。ある日の夕食は、ご飯・みそ汁・肉じゃが・白菜の浅漬けでした。ご飯はさすがにジャポニカ種ではなくインディカ種ですが、みそ汁は煮干しできちんとだしを取り、日本から持って来た塩昆布で浅漬けを作ります。あとは、親子丼やネパールカレーなど、共同生活を送るスタッフの得意料理を食べました。

初めての場所で生活するという事は、最初は誰でもどこでも慣れません。でも、時間の経過と共に、「初めて」が「初めて」でなくなり、その生活が日常となっていくのだと思います。今回も、「アフリカ」だから生活しにくいのではなく、「初めての場所」だから生活しにくい、という意味で「日本とそんなに変わらない」ことをつくづく実感しました。

多分、皆さんの予想より遥かに普通のルワンダ。願うのは、私の話を聞いてアフリカを身近に感じ、次にこのような機会が訪れたときに、手を挙げて飛び込んで行く人が現れることです。世界を近く感じられると、相対的に自分の視界に入るものが多くなる。自分の世界が広がるというのはなかなか悪くないですよ。





“.:.:。 , ☆ ° ’ .:.:。 , 君の知らない台湾 ,。 .:.:。 ’ ☆ ,。 .:.:。”

◆ 特別聴講生 ウー シー ジェ 巫 錫 杰 (台湾)

東日本大震災以来、日本と台湾の両国がますます仲良くなりました。その上、台湾を知っている日本人も増えています。何でも安いし、飛行機で三時間以内に行けるし、正に休みの日の最高の旅行地だと思いませんか？皆さんは台湾にどんなイメージをもっていますか？これから台湾出身で年も近い私が交換留学生の視点で皆さんに台湾を紹介しましょう！

まずは私の大学、「台北市立大学」という公立大学から紹介します。台北市立大学は台湾の首都—台北の心臓地帯にあります。MRTという台湾の都心鉄道システムの中正紀念堂駅に近いですし、台北の渋谷・原宿と称される若者の街—西門町まで徒歩15分、台北駅まで徒歩10分です。総統府や中正紀念堂などの有名な観光地が周りにあります。とても賑やかで便利なポジションです。

更に、1895年開校から今まで119年の歴史があつて、とても古い学校です。以前の台北市立大学は隣の台北第一女子高校と台湾で一番の女子高校と並列していました。1987年から教育大学になりました。全国で教師を育成する学校の中で不動の一位です。その後、2013年に台湾の金メダル体育選手を沢山育てた台北市立体育学院と合併して、今の台北市立大学になりました。

学校の学部生人数は4,300人ぐらいです。同じ教育大学ですから分野も鳴門教育大学とよく似ていますが、部活はとても豊かです。テニス部や証券研究部やアニメ漫画研究部など色々な鳴教大にはない、台湾人も聞いたこともないめっちゃくちゃな部活がいっぱいありますよ！

次、台湾といえば、皆さんはどんなイメージを持っていますか？今まで聞いた日本人は全て「ショーロンポー」と答えましたが、それはただの勘違いですよ！台湾人の友人にその

答えを教えると、皆首を傾げました。さあ、さっそく台湾イメージしましょう！

台北市立大学がある町、台湾の首都で最も人気な観光地区「台北」には沢山な観光スポットがあります。東京より台北の地下鉄路線は単純で安いです。それに、駅は有名な観光スポットとすぐ近くですからとても便利です。それ以外、都内のバスには421の路線があります。どこまでも行けるし、料金は一回で15 TWD (¥50に相当)ほど安いです。

台北の観光地について、良く知られているのは「台湾のスカイツリーと言われた台北101(いちまるいち)」や「中華文化の至宝を保存してる故宮」や「不夜土林夜市」など台湾っぽい場所ですが、台湾人にもあまり行かない穴場—陽明山(ようめいさん)を薦めます。都心からバスで20~30分ほど近い陽明山は大屯火山群を形成する国家公園であり、園区内のスポットは環状なバス路線があります。「牛が自由に生活している広い山頂の大草原」や「万物を見る、台北で最も空に近い頂点」や「巨大隕石坑みたい、鼓動している硫磺谷と温泉」などの壮麗な絶景は絶対に見逃せません！

台湾の食べ物について、台湾の代表的な食べ物を台湾人に聞くと、色んな答えがありますが、ショーロンポーと言っている人はたぶん珍しいと思います。ショーロンポーより台湾を代表できる料理は沢山あります。「台湾のラーメンと言われる牛肉麵」と「簡単で美味しい台湾丼の滷肉飯(ルーローファン)」と「台湾文化と飲食の奥義—屋台料理」こそ何回食べても飽きない台湾っぽい料理だと思います。

最後、個人的にお勧め料理をリストして差し上げます。良かったらぜひぜひ召し上がってください！

<お勧め料理リスト>

- オアチエン 蚵仔煎：かき、卵、野菜と特製なたれで作るもちもち料理です。日本語で「かき焼き」と言います。必食の夜市料理です！
- ダンピン 蛋餅：台湾には特有な朝食文化があります。朝食の専門店が良く見えます。朝食屋で普遍的な料理は吐司(トースト)と蛋餅です。ハムやベーコンや肉などを好みに選んで蛋餅の中に包んで、醤油をかけて素晴らしい朝を迎えましょう！
- 百香緑茶：日本と違って、台湾にはいっぱい茶飲の店があります。そのメニューによくある飲み物です。緑茶に百香果という果物をかけて甘くてスッパイ南国の果物の香りが満喫です！日本に存在しない味です！
- 豆花：凝固した豆乳製品です。甘い汁に入れて、自分が好きな台湾っぽいトッピングを選べます！冷たい、熱い、カキ氷バージョンがあります！
- 台北士林夜市の大上海生煎包：大上海は店名、生煎包は料理の名前です。生煎包はショーロンポーの進化バージョンです。この店は士林夜市の最高な屋台料理と思います。肉と野菜二種類しかありません。肉でも野菜でも一個12TWD(¥40に相当)です！

この文章について、又は台湾について質問があれば、いつでも気軽に相談してください！(お問い合わせ：国際交流係)



陽明山にある大草原—擎天崗です。



陽明山の硫黄谷—小油坑の航空写真です。士林夜市にある屋台—大上海生煎包です。



学生同士の交流の場を

◆ 学生会長 赤木 静香

みなさん、こんにちは！ 学生会長の赤木静香です。今年度も学生会執行部一同は楽しく活動しています。

先日のかき氷大会は、雨天延期を繰り返しながらも、なんとか開催することができました。広報活動が不十分で、皆さんに参加していただけるか心配でしたが、当日は過去最多の人数で、たいへん嬉しく思っております。学生の皆さん同士が楽しく交流されている様子を見て、私たちも頑張ろうという気持ちになります。冬にはココアデーも開催する予定なので、是非足を運んでください。

10月には徳島ヴォルティスとの連携企画で、他大学、高校との交流もあります。今年は当日ボランティアスタッフも募り、皆さんにも積極的に交流していただければと思っております。

これからも学生会執行部一同は学生生活をより

よくするために頑張っていきます。



人と人がつながる院生会

◆ 院生会長 山田 高之

平成26年度の院生会長を務めております、山田高之と申します。院生会は本学に所属する大学院生によって構成され、大学院生同士の交流を深めることを主な目的として院生会主催行事の運営をおこなっています。

前期におこなった行事は2つ、1つは6月上旬に2日間にわたるソフトボール大会を開催しました。1日目は各コース対抗のリーグ戦が、2日目は決勝トーナメントがおこなわれ、両日ともに熱い試合がくり広げられていました。もう1つは6月下旬に国際交流パーティーを開催しました。本学の留学生との交流を目的に食事や有志によるパフォーマンスがおこなわれ、本年度は253名の参加者の方々に楽しんでいただきました。

私は本学に入学してから右も左もわからない状態で院生会に所属となって、さまざまなことが重なり会長になりました。会長としてできたことは少なかったですが、院生会の活動は学生課の方々ならびに院生会役員一人ひとりの支えがあったか

らこそ前期を無事に終えることができたと感じております。また同時に人と人とのつながりを多く持たせていただいていることに感謝をしています。

後期からの半年間、会長として院生会の仲間とともに最後まで笑えるよう顔晴（がんば）っていきますので、よろしく願いいたします。



健康手帳

医療における偶然 —患者の運と医師の運—

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



現代の医療では、エビデンスに基づいて治療方法が考案されますので、病気の治療の帰趨が偶然や運に左右されるようなことはほとんどありません。医療における偶然や運は誤差範囲に含まれるべきでしょう。しかし、偶然が治療結果に影響する症例も現実には存在します。

その症例は、私が一人医長として四国がんセンター病院（国立松山病院から移管）に勤務していた時のものでした。1983年の初冬のある日、生後2週間の新生児が発熱と弛緩性麻痺で受診しました。脳炎が疑われましたので、CT検査を行いましたところ、両側の側頭葉を中心として広範な出血巣が認められ、ヘルペス性全脳炎を示唆する所見でした。

ヘルペス脳炎とはヘルペスウイルスによって引き起こされる脳炎で、未治療での死亡率は全年齢の統計で60-70%といわれています。治療は、抗ウイルス作用を示す薬剤は知られていましたが、治療成績は充分ではありませんでした。

一方、当時、その数年前から、癌の化学療法が急速に進み始めて、それにとまなう二次性の免疫不全症による日和見感染が問題となっていました。ヘルペスウイルス感染もそのひとつでしたが、1977年にElison女史（1988年ノーベル医学生理学賞）らによりアシクロピル（ACV）が有効であることが発見され、ちょうど私が国立がんセンターで研修医として勤務していた時（1982年頃）に治験研究用に持ち込まれていたものを、許可を得て持ち帰っていたのです。しかし、重症の新生児に24時間付き添うわけにもいかなかったので、愛媛大学に紹介しました。

翌年の晩春、ひとりの婦人の訪問があり、元気になった乳児を見せられました。その子には軽い

麻痺が残っていましたが、薬剤の効果に感動するとともに、安堵の気持ちを覚えました。このケースは、私が経験した唯一のヘルペス脳炎の症例ですが、発売前でありながら、偶然、特効薬を手持ちしていたという、患者としても医師としても考えられない幸運が重なったと思います。

ヘルペス脳炎に対するACVの効果が確立したのが1984-1985年でしたので、新生児ヘルペス脳炎に対する治療成功例として、1983年の本症例は世界的にも最も早い段階のものと考えられました。この症例は愛媛大学からも私からも研究論文として報告はしていませんが、当然、報告すべきものであったと思います。ひとりの医師の臨床経験が他の多くの患者や医師の参考になるからです。

科学と偶然の関係では、多くの重要な発見が偶然に他の研究の途上で見つかっています。思わぬ発見をする能力のことをセレンディピティーというようです。これをパスツールは「幸運の女神は準備した所を訪れる」と表現しました。また、ゲーテは「発見は幸運、発明は知性」という言葉を残しています。ジャック・モノー（1965年ノーベル医学生理学賞）の「偶然と必然」という本には、宇宙誕生から地球上の生命誕生の条件が整うまでは偶然であったが、幾多の偶然が重なった後の生命の誕生と進化の過程は必然であったというようなことが書かれています。

医師の仕事が研究志向から臨床志向に変わって、わが国の臨床医の研究論文が激減していると言われています。しかし、常に目の前のひとりの患者に新鮮な目を注ぐことによって、疾患や治療に関する新知見を発見するような医師の運を引き寄せることができるのではないかと思います。



防犯 ～みなさんは自分の身を守るための対策は、行っていますか？～

「安全・安心メール」等を利用し、日頃から、自分の生活に密着した地域の日々発生している犯罪などの情報を知っておくと、防犯意識も高まります。



※「安全・安心メール」とは、警察・消防・自治体などが配信するメール配信サービスです。
徳島県安心メール（徳島県警本部）：<http://www.ansin-mail.net/>

1. 日常生活

- ・戸締まりはしましたか？
- ・外から部屋の中の様子が見えていませんか？【のぞかれていませんか？】
- ・呼び鈴が鳴ったとき、不用意に玄関を開けていませんか？
- ・周囲に不審な人物はいませんか？
- ・帰宅時に部屋の鍵を開ける前や車に乗り込む前に周囲を見回してみましょう。
- ・個人情報の入った書類等を捨てる時は、個人情報が分からないようにしていますか？



2. 夜間の外出 一夜の一人歩きは、できるだけ避けましょう。

どうしても一人で歩かなければならない場合は、懐中電灯や防犯ブザーの携行をお勧めします。

イ. 人通りのある明るい道を歩く！ 遠回りでも明るい道を選んで歩きましょう。

ロ. 助けを求める場所をチェックしておく！

交番やコンビニなど、24時間いつでも「逃げ込める」「助けを求められる」場所を確認しておきましょう。

ハ. 「ながら歩き」をしない！【音楽を聴いたり、スマートフォンなどを操作しながら歩かない！】

ながら歩きは、意識が音楽やスマートフォンに向いているため、周囲の異変に気付かず、危険回避ができない可能性があります。

ニ. 足早に歩き、ときどき後方（周囲）の状況を確認する！

ゆっくり歩いていると近づきやすく、ひたたくりや性犯罪等に巻き込まれやすくなります。ですから常に警戒心を持ち、足早に歩きましょう。また、後ろを振り向くなど周囲の状況を確認する行動は、警戒心が高いことを見せることとなり、防犯対策として効果的です。

3. 不審者

- ・大学周辺や構内において不審者の情報が寄せられています。
- ・危険を感じた場合は、大声を出して近くに助けを求めてください。
- ・知らない人物に安易に住所・氏名・電話番号等を教えないようにしましょう。
- ・不審な行動をする者を発見した場合は、大学（窓口・電話・メール等）に情報をお寄せください。

4. 大学の防犯対策

本学では、Web上（LiveCampus）で学生の皆さんに注意を呼びかけるとともに、警察署にも通報し、パトロール等を依頼しています。

本学では、防犯ブザーを貸出しています。希望者は、学生課までお問い合わせください。

行事予定

平成26年度後期

行 事 等			
共通	10月1日(水) 創立記念日(33周年) 10月2日(木) 授業開始 10月9日(木) 「後期履修登録」締切 10月10日(金)～10月16日(木) 後期履修登録変更期間 11月14日(金)～11月16日(日) 大学祭・学生表彰表彰状授与式 12月18日(木)～12月25日(木) 冬期集中講義 12月26日(金)～1月4日(日) 冬期休業 1月24日(土) サークル・リーダーシップ・セミナー 3月1日(日)～3月31日(火) 学年末休業 3月18日(水) 学位授与式, 各賞授与式, 学生表彰表彰状授与式		
	学部	10月15日(水)～10月28日(火) 施設実習(2年)【鳴門こども学園等】期間中10日間 10月20日(月)～10月24日(金) 特別支援教育観察実習(4年)【附属特別支援学校】 10月20日(月)～11月14日(金) 特別支援教育実習(4年)【附属特別支援学校, 県立特別支援学校】期間中2週間 10月21日(火)～10月22日(水) 3年次生合宿研修 10月27日(月)～11月7日(金) 副実習(4年)【附属中学校】, 【附属小学校28日(火)～】 2月2日(月) 「卒業研究」提出締切 2月16日(月)～2月20日(金) 後期試験期間	
		大学院	11月28日(金) 1年次生(修士)(長期履修2年次)「学位論文計画書」提出締切 2年次生(修士)(長期履修3年次)「学位論文計画書(変更届)」提出締切 1月20日(火) 2年次生(修士)(長期履修3年次)「学位論文」提出締切 2年次生(専門職学位課程)「最終成果報告書」提出締切
			※11月27日(木), 1月15日(木)は, 月曜日の授業を実施する。

入試関係行事

- 学部推薦 (I型) 11月22日(土)
- 大学院 (中期選抜) 11月29日(土)
- 大学入試センター試験 1月17日(土)・18日(日)
- 学部推薦 (II型) 1月27日(火)
- 学部 (前期日程) 2月25日(水)・26日(木)
- 大学院 (後期選抜) 3月7日(土)
- 学部 (後期日程) 3月12日(木)

学生会主催行事

- クリスマス・イルミネーション 11月下旬～12月 図書館前
- 卒業記念パーティー 3月18日(水) 体育館

院学生会主催行事

- ソフトバレーボール大会 12月14日(日) 体育館

就職支援行事予定

※詳細は, 就職支援室で確認すること!! (平成26年10月～平成27年3月)

- 3年次合宿研修 10月21日(火)～22日(水)
- 大学院生就職研修会 11月1日(土)
- 教採対策ガイダンス (基礎編) 11月5日(水)・12日(水)・26日(水), 12月3日(水)・10日(水)・17日(水), 1月14日(水)・21日(水)・28日(水), 2月4日(水)・18日(水)
- 企業ガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ 11月5日(水), 11月19日(水), 3月下旬～4月上旬
- 公務員等ガイダンスⅠ・Ⅱ 11月12日(水), 2月18日(水)
- 教採対策ガイダンス (論作文編) 11月19日(水), 1月7日(水)
- 就職ガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 11月26日(水), 12月10日(水), 1月21日(水), 2月24日(火)
- 教採実技ガイダンス (集団) 12月6日(土)
- 本学出身教職関係者との情報交換会 1月31日(土)
- 教採実技ガイダンス (個人) 2月14日(土)
- 教員採用模擬試験 2月28日(土)

編集後記

『学園だより』第70号をお届け致します。

冒頭に掲載致しました田中学長の随筆がまず印象的です。老賢者たることへの意志は, そうなることの困難さの自覚(自己不全感)が原動力となっているということでしょうか。自己不全感ということは, 本号で紹介した澁刺とした学生たちの活動とは一見無縁であるようです。しかし, 輝かしい未来を想定し, そこに向けて努力するということは, やはり自己の不完全性を意識するところから始まる作業なのでしょう。

最後になりましたが, 投稿にご協力してくださった方々に深謝致します。(K)

